



クロストーク



市長

二十歳

二十歳のつどい関連事業



勝海舟が「塵まみれになって一生懸命働く人たちが聚まる亭」とたたえ「聚塵亭」と言い伝えられている矢板武旧宅である矢板武記念館。ここはかつて政治家たちが絶えず出入りし、日本の未来について活発な議論が行われた場所です。
半世紀以上の時を経て今年、二十歳になる6人と市長との熱いクロストークが実施されました。

Junichiro Saito



市長 齋藤 淳一郎

30年前に第1回目の市成人式実行委員会メンバーとして式典の進行、記念事業運営などに携わる。今回のクロストークの発案者。

Saori Takakamo



司会 高賀茂 沙緒里

RADIO BERRY アナウンサーで、やいた応援大使。今年度で10年目となるラジオ番組「矢板時間」パーソナリティ。



F Mとちぎ (RADIO BERRY76.4FM) 生放送番組「B・E・A・T」内 毎週火曜日 17:10～17:20

1月10日(火) 17:10～17:20

「矢板時間」で放送されます!

番組内では、実際の音声でクロストークが紹介されます。ぜひお聞きください。

Kizuki Kuwabara

桑原 築希



大学で商品のブランドの構築やマーケティングについて学んでいます。実家は農家を営んでおり、野菜を道の駅やいたやJAに出荷しています。夏休みなどは出荷の手伝いのかたわら、野菜を買いに来たお客様とのコミュニケーションを大切にしています。お客様の反応・生の声を聞いて感じた販売への課題、その解決策を大学の授業を参考に考え、両親が一生懸命育てた野菜を多くの人に味わってもらえるよう取り組んでいきたいと思っています。

将来は国家公務員として国民のために働きたいと考えています。生活の根幹である「安心・安全を守る」という使命に魅力を感じ警察庁に入庁することを目標にしています。矢板を離れて就職する道を選んでいますが、幼い頃から参加してきたともなり文芸祭りに作品を出展するなど、文化活動を通して矢板とのつながりを維持していきたいと思っています。また、そのような機会に帰郷して市民の方たちと触れ合うことを大切にしていきたいと思っています。

Rio Nakago

中郷 李生



Anne Yoshizawa

芳澤 杏音



私はここにいるみんなより一足先に就職する道を選びました。高校を卒業して矢板市役所に入庁し、国体・スポーツ局で働いています。昨年は、国体という大きなイベントに仕事を通して携わったことで自信をつけることができました。小学生の頃から和太鼓を演奏していて、今は、先生という立場となり子どもたちに教えています。和太鼓を楽しい気持ちで続けてもらえるよう、一人ひとりの心に寄り添いながら一緒に楽しむことを心掛けています。

高校生の頃に学生ボランティア団体 YAD に所属していて、ふるさと支援センター TAKIBI のリノベーションに携わりました。大学では測量学や構造力学など設計分野で勉強を進めていて、将来矢板に戻ってきたら、空き家などのリノベーションに携わり、自分が培った知識を矢板のために活用していきたいと思って勉強に取り組んでいます。将来は自分が学んだ分野の知識を生かし、人との交流を楽しみながら地域に貢献していきたいと思っています。

Saito Junya

齋藤 潤治



Ayano Nakago

中郷 綾乃



私は英語教員を目指して大学で学んでいます。教員として生徒と向き合うために、身に付けるべき知識や技能について日々の講義や実習などを通して学んでいます。また、自分の英語力の向上にも取り組んでいて、資格取得などにもチャレンジしています。今後は、教員という立場になるにあたり、地域の子育て環境にも目を向けていきたいと思っていますので、この場で市長に矢板の子育て環境について質問したいとも考えています。

私の実家は測量会社を営んでおり、将来は祖父や父の後を継いで会社を経営したいと思っています。大学では測量学を学んでいるほか、授業とは別に家業を継ぐための資格取得にも力を注いでいます。また、長期休みのときには矢板に帰ってきて、父の仕事を手伝っています。大学での座学を実際に経験できるのでとても勉強になります。ロータリークラブや商工会の活動にも興味があり、若いうちから参加してさまざまなことを吸収していきたいと思っています。

Sena Kakuwa

格和 世成





矢板の野菜を一人でも多くの人に届けたい！

道の駅やいたは、開店前から行列ができるほどたくさんの方が訪れます。矢板にもこんなに人が集まる場所があることを、出荷の手伝いをする中で知りました。市内の旬な野菜が豊富に売られ、県内外から多くの方が訪れるこの場所は、市の生産物をPRする絶好の場所です。もっと多くの人に道の駅やいたを広めることができたらと思います。

桑原



市長

集客・売り上げ好調！もっと多くの人に広められるよう整備を進めていきます。

道の駅やいたはとても集客力が高い施設で令和3年度は136万人の方にお越しいただきました。これほど集客を見込める施設は、周辺の市町を見てもないと思います。

集客・売り上げが好調なので、もっと売り場面積が必要という声や、休日は駐車場が足りないという課題があります。一人でも多くの方が訪れ、矢板の新鮮な野菜・商品を手にできるよう整備を進めていきたいと思っています。



矢板には魅力がたくさん。若者に身近なSNSでもっと情報発信を！

矢板には素敵な景色が見られる場所や食べ物おいしいお店が数多くあるのに、その良さをPRしきれていないのが残念だと感じています。

私たちの世代に情報を伝えていくためには、InstagramやTikTokのような若い世代にとって身近なツールを使って情報発信をするのが一番だと思います。

芳澤



市長

離れたからこそ気づいた矢板の魅力を若者目線で発信してほしい。

RADIO BERRY やとちぎテレビで情報発信していますが、若者に対してはもっと身近なツールでの発信が良いのでしょうか。矢板も昨年Instagramを始め、若い世代に向けての情報発信に力を入れているところです。

どの地域にも言えますが、身近すぎて良さに気づかないことがあります。皆さんのように離れて暮らす方に魅力を再発見してもらい、自らのSNSで発信してくれることを期待したいと思います。



閉校した学校をリノベーションして観光スポットとしての輝きを！

私は旅行動画や全国の観光地で行きたい場所を探るのが好きです。高知県では閉校した学校をリノベーションして宿泊施設にした事例があり興味を持っています。他にも水族館にした事例もありました。矢板でも閉校になった学校を利用して人々がにぎわう観光スポットとなるように整備を進めていく予定はあります。

齋藤



市長

地域の方の想いを大切に、にぎわいを創出できる活用方法を考えます。

直近だと、泉中学校が今年の3月で閉校になりますが、そこに複合施設を整備する計画があります。また、平成31年3月に閉校になった西小学校には市外のIT企業が進出しています。

学校は教育の場であり、地域社会のシンボリック存在でもあります。地域の皆さんの思いも大切にしながら、新たな地域の「にぎわいの場」が創出できるような提案を、皆さんのような若い方からもいただいきたいと思っています。



健康管理のアプリを開発しては？

市の健康づくり事業で「やいた健康ポイント」がありますが、既存の参加者に活動量計を持ってもらい運動を促すのではなく、いつでもどこでも誰もが使えるような健康管理のアプリを開発する予定はありますか。高齢者の方もスマートフォンを使いこなせる時代なので、全世代が活用できるアプリを導入してみたいと思います。

中郷



市長

積極的に検討し、多世代交流のきっかけにしたいと思います。

本市は「矢板市デジタル戦略」という計画を作り、民間企業からさまざまな提案をいただいています。今後アプリ開発なども積極的に検討していきたいと思っています。

重要なのは、単にアプリを開発するだけでなく、「デジタル技術をいかにわかりやすく市民に教えていけるか」だと思います。若い世代の方には、そのようなことを通じて、多世代との交流の幅を広げていっていただければありがたいです。



子どもを安心して預けることのできる教育施設の整備を。

矢板は県外に出てしまった人が戻ってくるのが少ないと感じます。私は、子どもを安心して預けられる環境が大切だと思っています。市内にある小中学校は歴史がある反面、施設が劣化していると思います。予算には限りがあると思いますが、整備することで矢板に戻り、子育てをしたいと前向きに考える人が増えるのではないのでしょうか。

中郷



市長

学校施設の整備と合わせ子育て支援の充実に取り組んでいきます。

市内の中心市街地に、小さいお子さんと保護者の方を支援するため、「子ども未来館」という子育て支援拠点を整備しました。

また、少子化の影響で学校を統合しますが、統合で生み出された予算を残された学校の施設整備に充てていく予定です。現在、東小学校の整備を進めており、令和9年度中の完成を目指しています。皆さんのお子さんが小学校に入学する頃にはより良い施設になっているのではないのでしょうか。



誰よりも矢板のことを考えている市長から強みと弱みを聞きたい。

私が考える矢板の強みは、外で活発に行動する高齢者の方が多いことです。弱みは、コロナウイルスの影響もあると思うのですが、人と人の距離を縮めるイベントが少なくなっていることです。市長自身が考える強みと弱みは何ですか。市長は市民の中でも一番矢板のことを考えている方だと思うので、聞いてみたいです。

格和



市長

交通の便が良いところが強みでもあり、弱み。解決策はまちの魅力を高めること。

本市には高速道路やJR宇都宮線があり、東京に気軽に行けてしまいます。それが強みでもあり、弱み。人口流出が続いている理由だと思います。解決策は、まち自体の魅力を高めること、他にはない産業でにぎわいを持たせることに尽きます。

本市では従来の農業や畜産に加え、林業木材分野でも全国のモデル地域に選ばれ、力を入れています。今後もそういった取り組みを推進していきたいと思っています。



クロストークを終えて——
一言でいうと心強いと感じました。それぞれの立場から矢板市への考えを語る姿は大変頼もしく、うれしく思います。次世代のために、矢板のまちをにぎやかで住みよいまちにして、バトンタッチをしていきたいですね。今後も皆さんの若い力を借りながら、矢板創生に取り組みます。

市長 齋藤 淳一郎

クロストーク
市長 二十歳



この様子をまとめた動画を、矢板市公式Youtubeで公開しています。ぜひ、6人の熱いまなざしをご覧ください。